



令和2年度生徒指導だより

# 梨の花

～心のふるさと下貝塚中学校～

市川市立下貝塚中学校  
発行者：生活指導部  
令和2年11月6日  
第7号

## 交通マナーを守って登下校しましょう。

11月から完全下校時刻が、年間で一番早い17時になりました。夏場より1時間以上も早いこととなります。生徒のみなさんにとっては、17時は暗いとはいっても、まだまだ夕食までには余裕のある時間帯です。帰宅しても、まだお家の方が仕事からもどっていないという家庭もあると思います。帰り道も無意識にゆっくりになったり、友達との会話に花が咲いて寄り道をしたりなどしていませんか。徒歩15分もあれば帰れる家なのに、1時間も帰ってこなかったら「不審者に連れて行かれたのではないか。」「交通事故に遭ったのではないか。」と心配になるのは当たり前です。「まずは家に帰る」ということを徹底してください。

本校の学区に限らず、毎日のように市内で不審者情報が入ってきます。登下校の時間帯をねらって出没するケースが多いです。普段から、保護者の方や先生と危機回避の方法を確認、相談しておきましょう。「あやしい」とか「何となく変」と感じた人や車があったら「近づかない、道を変える」ことは賢明な方法です。

本校は、今年度現時点では、登下校での交通事故はありません。ただ、「生徒全員が登下校で歩行者として100%交通法規を守っているから」と自信をもっては言えません。歩道の使い方や交差点の渡り方など、先生方に注意をうながされているのを見かけるときがあります。車・自転車・歩行者としてそれぞれ、ルールとして守らなくてはならないこと、マナーやモラルを意識しなければならないことがあります。警察も赤色灯を回しながら、巡回しています。学校でも、定期的に職員が見回りをしていますが、みなさんは「自分の身は自分で守る」が基本です。暗くなってからの自転車の乗り方についても注意してください。

## ～薬物乱用について～

薬物は世界の国々で深刻な社会問題となっています。わたしたちの日本でも例外ではありません。薬物の汚染は私たちの身近にせまってきています。薬物乱用を防止するためには、薬物の恐ろしさを正しく理解し、薬物に関する正しい知識を身につけることが大切です。



## ～薬物乱用の果てには…～

薬物は、中枢神経系に作用し、乱用したときの快感を得るため、また、乱用をやめたことによる苦痛から逃れるため、薬物を強く求める「依存性」が形成されます。また、薬物を繰り返し使っているうちに同じ量では効かなくなる「耐性」が生じます。

「たった一度」という好奇心や遊びのつもりで始めても、薬物の依存性と耐性によって、乱用する量や回数がどんどん増えていくという悪循環に陥り、自分の意志でやめることができなくなります。また、乱用をやめても、睡眠不足や過労、ストレス、飲酒等をきっかけに、幻覚、妄想などの精神異常が突然現れること（「フラッシュバック」）もあります。

薬物は、それを乱用する人間の精神や身体をぼろぼろにし、人間が人間としての生活を営むことをできなくするだけでなく、場合によっては死亡することもあります。

また、薬物乱用による幻覚、妄想が、殺人や放火等の凶悪な犯罪や交通事故を引き起こすことがあるなど、乱用者本人のみならず、周囲の人、さらには社会全体に対しても、取り返しのつかない被害を及ぼしかねません。

こうしたことから、覚醒剤、麻薬等の使用、所持などは、法律により厳しく禁止されているのです。

アヘン系アルカロイド系 麻薬	アヘンに含まれる成分であるアルカロイド及びそれを原料として科学的に合成される物質モルヒネ・ヘロインなど
コカアルカロイド系麻薬	コカの葉に含まれる成分であるアルカロイドコカインなど
合成麻薬	科学的に合成される物質 LSD、MDMA、PCP など

## ～「子ども110番のいえ」を知っていますか？～



犯罪等の被害に遭い又は遭いそうになって助けを求めてきた子どもを保護し、警察への通報等を行う「子どもを守るボランティア活動」の一つです。「子ども110番の家」等の活動は、お子さんをお持ちの保護者や地域住民、事業者等の方々のご協力により、地域ぐるみで子どもを犯罪から守るための取り組みです。